



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



キリストの眼差し注いで30年

鹿兒島きぼうの電話が記念式典

電話を利用して「苦しむ人と共に苦しもう」「教会の耳になる」と1987年に始められた鹿兒島きぼうの電話(山口寛子委員長)が開局30周年を迎え、去る12月23日(土)教区本部で記念式典を行った。式典には吉野教会主任司祭当時、開局に尽力した郡山健次郎司教をはじめ多く関係者が集い、30年間続いた活動を振り返ると共に、ますますのサービス充実を誓い合った。

1986年9月、苦しみ悩む人の声を聴く電話活動を始めるための準備委員会が教区本部に設置された。これは電話で話を聴く活動の必要性を訴えた故・糸永真一司教が当時は吉野教会主任司祭だった郡山健次郎神父(現・司教)を担当者

に任命して、実現に向けて動き出したもの。当時の教区力からすれば、困難と考える活動への挑戦でもあったが、多くの信徒が協力を名乗り出、実現へ向けて動き出すこととなった。

者の中から27人が最初の相談員となることを決心し、電話相談業務が始められることとなった。開局式は1987年の12月8日の無原罪の聖マリアの祝日。そして翌日の12月9日から、旧ザビエル教会裏にあったフランシスケンの修道院跡を利用し、TEL0992(23)3399で電話による悩みを聴く業務を開始した。開局当初の業務は週3日(月・水・金)の午前9時から正午までと午後8時から午後11時までの6時間だった。開局から1年が経過した頃、業務時間の拡大を訴えた郡山神父は「話したいという人の要望にこたえたい。この活動はキリストが注がれた眼差しと同じように感じられる」と電話相談業務への思いを語った。そしてその思いは実現し、1990年からは週5日(月・金)、9時～16時と20時～23時までの10時間となった。

その後、1996年には人事異動により顧問司祭が郡山健次郎神父から竹山昭



郡山司教の話聞く出席者たち

受ける相談員の養成と確保。そのためには準備委員会ではカウンセリングなどの資格を持ったない素人たちを傾聴のプロに養成しようとして鹿兒島大学の教授や県精神衛生センターの専門家に講師を依頼し、養成講座を実施した。当時の養成講座は6月から10月までの間に14回開かれ、77人が受講、その講座の修了

その頃、1996年には人事異動により顧問司祭が郡山健次郎神父から竹山昭

1月8日(月)母国教会で「今後の徳之島の在り方、取り組み」について検討する会があった。午前10時から昼食をはさんで午後3時までのこの会では、講話・分かち合い・話し合いがあり、ミサをもって締めくくられた。この会が企画されたのは

宣教を考える集いを開催

自立に向けて動き出した徳之島

しかしそんな相談員たちも年数の経過とともに、高齢化により相談員として働くことのできない人たちが多くなった。毎年、10人程

度、相談員を誕生させている鹿兒島きぼうの電話だが、実際に電話を受ける業務に就ける人の数は限られており、業務時間の安定に苦慮している。

総務省は昨年11月3日、叙勲者を発表。その中に鹿兒島大学名誉教授・土田充義(NPO法人文化財保存工学研究室)さんの名前があった。福岡在住。80歳。土田さんは1937年5



土田充義さん叙勲

総務省は昨年11月3日、叙勲者を発表。その中に鹿兒島大学名誉教授・土田充義(NPO法人文化財保存工学研究室)さんの名前があった。福岡在住。80歳。土田さんは1937年5

昨年10月、徳之島のために57年間尽力してくれた聖心の布教師妹会のシスター方が引き揚げることに、これからは信徒が自分たちで共同体を活性化する取り組みを始めようとしたため。まず大松神父から徳之島の現状や教会憲章、信徒使徒職に関する宣言などに

ついての講話があり、その後二つのグループに分かれ、教会の現状、自分たちの信仰の在り方、徳之島の宣教などについて分かち合い、第2バチカン公会議の精神を学ぶことの大切さに気づかされた。

昼休みに婦人会の手作りの昼食が振る舞われ、午後から各グループの発表と今後の取り組みなどについて次のような意見が出された。①教会から離れている

(報告・浜田スミ子)

2月2日は主の奉獻の祝日

司祭・修道者の召命を祈りましょう!

- ① 聖別奉獻生活という賜物を与えて下さった主に賛美し、感謝すること
- ② すべての人が聖別奉獻生活の価値をよりよく知るようになること
- ③ 奉獻生活された人たちが、主が与えて下さった業のために共に集まり、祝うこと

鹿兒島教区修道女連盟

司祭の消息

▼中野裕明神父(日本カトリック神学院院長代理)は、ローマからの任命により同神学院院長

YCC参加者募集

毎年恒例の春休みを利用した中高生対象のYCC(ユース・カトリック・キャンプ)が以下の要領で開催される。

テーマは「十字架が教えてくれるもの(仮題)」。

参加資格は今年度の中学生・高校生(中1から高3)で、日程は3月24日(土)から27日(火)までの3泊4日。開催場所は日向学院海の家(日南市)となっている。問合せ申込はラ・サール高校の岩崎正幸さんまで。TEL099(268)3121

月11日の満州生まれ。鹿兒島在住時は玉里教会に所属し、旧ザビエル聖堂の価値を訴え、その解体から移設・再生に尽力した。この度の瑞宝中綬章は、永年の教育研究功勞に対して贈られたもので、伝達式は11月15日であった。

3月19日(土)
認定式のため、新幹線で鹿兒島まで日帰り。これまでさんざん現代文明を批判しつつ歩いておきながら、その恩恵にあずかる情けなき。

3月20日(日) 遠賀ー和白：約30km
午前9時半、遠賀を発

岡垣町に入り、唐津街道に合流。城山峠を越える。赤間だった。旧唐津街道をさらに原町、青柳へと歩く。

途中、山の口峠(八並)で、「太閤水」との標識を見る。天正十五(1587)年、豊臣秀吉が島津制圧のため、二十五万の兵を率い筑前から肥後路へと南下したとき、ここで大休止し水を求めた。千利休が土地の老人の案内で清水を得、献上。九州を平定した秀吉は帰路、ふたたびここで馬を休めこの清水で喉を潤した。以後、これを「太閤水」というとのこと。

古賀筵内では、菜の花の海を見た。目の覚めるような黄色が一面に。春だ。午後5時30分、和白に着立。

3月21日(月) 和白ー志賀島(航路含む)：約28km
午前10時30分、和白を出立。

和白では、古賀教会でお世話になった。昨晩来、オプレート会の司祭たちのユイモアあふれる遠慮のないやりとり、キリスト教的兄弟の交わりの、共同生活の鍵を見た。明るく、楽しく。これに尽きるだろう。雁の巣を過ぎ、西戸崎を経るうち、風が強くなる。海の中道では、砂嵐だった。倉敷のWさんの言葉



志賀島にて

を思い出す。たしかに、志賀島橋では砂まじりの強風に晒された。海のおもては、左の福岡湾は風、右の玄界灘は大波。コントラストが印象的だ。二十六聖人たちは本来、

押学生の「僕の長崎への道」 日本二十六聖人の道を歩いて (16)

志賀島から名護屋へと海路を連行の予定であった。しかし悪天候に見舞われ玄界灘が大荒れのため急遽、博多へと渡航したという。志賀島から博多へはフェリーで。博多港から天神を経て、昭和通りを西へ。午後5時過ぎ、姪浜着。左足親指の爪のきわに流血あり。

3月22日(火) 姪浜ー大入：約28km
午前10時半、姪浜を発

途中、松原交番で遺失物届け。昨晩、手帳を紛失したよう。博多に着いたら会おう、と旅の前に福岡教区神学生のR君と約束をしていた。昨晩、天神で遅くまで談笑。つい気が緩んだものか。どこかで落としたらしい。

生の松原、今宿と海岸沿いを行く。きのうとは打って変わって風はやさしい。おだやかな陽気。新興開発地域を抜け、加布里からふたたび海岸沿いを歩く。午後5時過ぎ、大入着。左足親指の爪のきわの流血は血まめになっていった。ベルギーのブリュッセルでテロ。犯行声明はまだない。

3月23日(水) 大入ー山本：約20km
午前11時半ごろ、大入を出る。この旅で最も遅いスタート。焦慮を覚える。だが、どれほど気を揉んだところで、なるようにしかならない。時間は自らのあず

かり知らぬところだし、距離は自らの脚相応にしか稼げないと知っている。海沿いの道。潮騒を聞きつつ歩む。ブリュッセルのテロ。空港の出発ロビーで二回、爆発。その直前、発砲とアラビア語で叫ぶ声があったという。そして空港での爆発から一時間後、ブリュッセル中央部の地下鉄マルベルク駅でも爆発。駅の近辺には欧州連合本部、欧州委員会ビルが。ベルギー政府は、国内テロ警戒レベルを最高に引き上げた。過激派組織IS(イスラム国)が「イスラム国に対する攻撃の代償として、十字軍同盟は暗黒の日々を迎えることを思い知らせる」と犯行声明。2015年11月のパリ同時多発テロの実

行犯が3月18日にブリュッセルで逮捕されており、これに対する報復テロではないかと見られている。主にキリスト教国を中心とした地球規模の高度資本主義経済を牛耳る西側先進諸国を標的とした、イスラム教徒による一連のテロは、その原因をもちや彼らの狂信にのみ帰するわけにいかない。地球規模の経済活動が生んだ歪みや欧米式民主主義の規範化など、画一的な価値観による世界的なマジョリティ支配の傾向が根本にあるように思われる。多様性を謳いながら現代社会は、対立・緊張を嫌い従来と変わらぬ調和や一致を強いる。いまだ自

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

「旅しとると？」と話しかけてきた少年がいた。学校のことで、友だちのことなどを話してくれる。「サツカー日本代表になりたい」との夢も。原入口交差点で少年と別れた。

午後5時、山本着。3月24日(木) 山本ー徳須恵ー武雄：約36km
午前8時50分、山本を出る。9時前に発つのは久しぶり。早い出立は気分がいい。

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

信仰心はないなどと軽々しく言ってはならない。潜在的に尊いもの、「可畏(カシコ)き物」(本居宣長の「古事記伝」三)を知っている。「いただきます」とか「ありがとう」とか、日々の何気ないことばや仕種に、信仰の源はいまも生きています。

波多八幡神社を過ぎ、橋を渡ってから駒鳴峠までの登り坂を、強風雨のなか、歩む。左足親指の血まめが痛む。ようやく足も癒え、長崎までの道程が見えてきた矢先のこと。四句節だか

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

らか、聖週間に入ったからか。県道38号に合流。峠越えにエネルギーを要したか、平坦な道ながらペースが上がない。足の痛みだけではないよう。全身が重い。この旅で初めてだ。

佐嘉藩桃川御番所を過ぎ、戸坂峠を越えると、街並みが遠くに見えた。テレビドラマ『佐賀のばいばあちゃん』の撮影も行なわれたという淀姫神社でしばし休息。武雄の市街地に。午後5時前、武雄着。

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

だが、生憎の雨天。電か霰か、氷雨の中を行く。徳須恵を経由、駒場峠へ。途中、真行寺にて休憩。御堂から読経の音が。里山の静けさとも相俟つて、心地良い。意味などもちろん分からない。その響きや調子が、どこかありがたく、ここをうつつ。これを信心というのではない

+KABAYAN SEKSYON+
Pagsasakultura at ang Eukaristiya
Sa pagtupad ng kanyang misyon ng ebangheli Sasyon sa Asya, kailangan makipag-ugnayan ang Simbahan sa malawak na kaibahan ng mga kultura. Isang malalim na pananaw ang batayan ng tahaking ito: ang pag-usbong ng mga tunay na pamayanan ng pananampalatay.
A sa Asya. Ang mga pamayanang Kristiyanong ito ay kailangan maging, ayon sa *Federation of Asian Bishops Conference (FABC)*, "Asyano sa takbo ng pag-iisip, pagdarasal, pamumuhay, at pagpapahayag ng kanilang sariling karanasang Kristiyano sa iba."
Hindi ikinapipinsala ng Simbahan ang daan ng "pagkakatawag-tao"; sa halip, itinataguyod nito ang tunay na pagiging Katoliko. Gaya ng tinuran ni Papa Francisco: "Kung naunawaan ng wasto, ang pagkakaiba-iba sa kultura ay hindi isang banta sa pagkakaisa ng Simbahan" (*Evangelii Gaudium* b.117). Mangyari pa, ang liturhiya at mga sakramento ay gumagamit ng mga kultural na pagpapahayag ng mga tao sa lugar. Sa ganitong paraan, ang pagkakatawag tao ng Katawan ni Kristo ay nagaganap sa buhay ng ilang mga tao.
Ang liturhiyang isinakultura, particular ang Eukaristiya, ay malaki ang maiaambag tungo sa ibayong pag-unlad at tunay ng espiritwalidad para sa mga Asyanong Kristiyano. Walang duda na sa paglago at ebo-lusyong ito, ginagabayan ng Espiritu Santo ang mga Simbahan sa Asya na pag-ugnayin ang kultura at pananampalataya. Ito ang natatang ing handog ng Asya sa Simbahang pangdaigdig.
Kaya sa pag-iisa ng mga kultura ng ibat-ibang Kristiyano sa mata ng pananampalataya tayo ay nakikiisa kay Hesus.
Hesus, Ang Mukha ng Habag ng Diyos (Fr. Dino Orolfo)

(文芸)

短歌

吉野教会 中江 均

うつつみの病みしころに
寄り添って三十路継ぎたり
希望の電話
愛犬も晴着装う初詣とまど
う愛ののどかな世相

鹿兒島純心 川上 和

如月の千キロの道耐えに耐
え西坂に捧ぐ二十六聖冠
東方より輝く星に導かれメ
シアの誕生マギら言祝ぐ

鴨池教会 前田 儀子
静かなる小春日和の刻過ぎ

(文芸)

俳句

孫の弾くシヨパンの夜想曲
ききながら長生きせねばと
腹からおもふ

あかときを自覚めて開く窓
の空おぼお赤き暈まとふ
月

鹿兒島純心 川上 和

ミサへの道スーパームーン
に照らされて
奄美市 林 常広

初日の出子のかつやく祈り
たし

ベトナムに新しい拠点を建設中

教区のために祈り続けている聖血礼拝修道会

鹿児島では霧島市溝辺町に修道院（聖ヨゼフ修道院）を構え、日夜、鹿児島教区のために祈りをささげ続けている主イエス・キリストの聖血礼拝修道会は、多くの志願者を送り込んでくれているベトナムで新しい修道院建設に取り組んでいる。教区報ではベトナムからの経過報告を紹介したい。

さて、ベトナムに来て2年が過ぎました。昨年5月13日に司祭館が完成して以来、半年の間、雨続き。やっと11月9日、土台だけで中止を余儀なくされていた聖堂工事の続きが始まりました。

半年もの雨季の間、外部の工事はできませんでしたが内部工事はそうではありませんでしたので内装はかなり仕上がっています。ですから外装が整い次第、聖堂も完成ということになるかと思っています。



建設が進む聖堂

ゼフ様のご像も美しい石で作製しました。今は、聖堂に置かれる日まで下の車庫に安置しています。

映画の紹介

原作 三浦綾子 監督 山田火砂子

劇映画「母」

小林多喜二の母の物語

上映日 3月16日（金）①10：30 ②14：00 ③18：30
 場所 かごしま県民交流センター県民ホール
 前売券：1200円（当日券：1500円）
 前売券の申込先：一麦書店（TEL099-259-0143）

「蟹工船」や「戦旗」を著した小説家・小林多喜二は、その思想のために特高から目をつけられ、拷問のために死亡とされている。その母親はその死を受け入れられずにいたが、教会との出会いで、キリストの死と多喜二の死を重ね合わせて思いを巡らしていく。その母・セキの生涯を描いた映画、ぜひ鑑賞して欲しい。上映前には、山田火砂子監督の舞台挨拶も予定されている。

設計は、日本での案をもとにベトナムの風土に合うように書き直してもらいました。修道院も最初は二階建ての設計でしたが、ここは敷地が広がったので平屋にしました。また仕事は畑だけで済ますから、ホスチア室、お菓子の部屋は取り除き、コーヒー用の物置を広くしたりなどしました。

今、コーヒーの赤い実が高原の山々に実っています。早稲が混じって一カ月前に実ったものを自分たちで収穫し、干して、あとは皮を取り、粉にひいてもらいました。司教様にも少しですがお届けします。

味見してください。将来は生活費をまかなうために3ヘクタールの畑でコーヒー作り、またビニールハウスで野菜作りをする予定です。

こちらのハウスの野菜の成長はとても早く、日本から持ってきたキュウリの種が日本では見たことのないほどの成長（30〜40センチ）を遂げ、1日に50キロの出荷が続いています。野菜は安くしか売れませんが、高菜、ニガウリ、ピーマン、ナス、トマト、ブロッコリー、豆、レタスなどの収穫が楽しくてたまりません。

先日、日本にも足を運んでくださったこちらで造花業を営むヤンさんはしばしば買いに来てくれるのですが、ご自分の店の前に「修道院の無農薬野菜」と大きく

く出して下さっています。作物は成長が早いのでどんどん収穫しないと大変なことになります。そこで神学生に取りに来てもらうたり、恩人達に配ったりしています。コーヒー畑では、実の収穫から枝の剪定、肥料、水やりも人を雇って行っています。それでも1年間の生活費は十分です。

修道院が出来上がったら、共産政府の方々のために、そしてすべての人々への聖血による救いのために、ベトナムを訪れる人が増えてくれたらと思っています。

修道院が完成したらぜひ、祝別式においでください。鹿児島教区のために毎日お祈りさせていただきます。（シスター鍋内、姉妹一同）

司教執務室便り

タイ式の信徒集会



先月、4年ぶりに古い付き合いのタイの友人ワット神父さんを訪問した。彼は、タイの東北、メコン川のほとりに立つと正面にラオスが間近に見える国境の教区で信徒総数5万4千のターレ大司教区の司祭で、現在、信徒数2600人の小教区の主任司祭。ちなみに、最大の小教区は彼の出身地であるターレで信徒数1万5千、住民全員が信者。

それはともかくとして、今回初めて聞いたことだが、この教区では10年前に始めた基礎共同運動が活発で10家族を1グループとして月一回の集いを欠かさないといい。基本的には信者だけの集まりだが、信者でない家族がいたら一緒に参加し受洗にいたるケースも多いという。もちろん子供達も全員参加。信者がお互いに離れて住んでいる都会では難しいそうで、実際にバンコクではうまくいってない。実際に機能しているターレ大司教区の例はいろんな場面での信徒養成の好例として参考になるかもしれない。特に中高生の黙想会にはいいか

もしれないと思ったので少し紹介したい。開会の聖歌と初めの祈りはどの集まりにも共通するとして注目すべきは「物語の時間」。教訓的な例え話であったり、時には実際の体験談も語られる。司会者は参加者に感想を聞き、何がメッセージだったかを話し合う。次に、語られた物語に見合う聖書が読まれ、印象に残った箇所を分かち合う。印象に残った理由も話してもらおう。そして、とりなしの祈りが続く。

特徴的なのはミサの奉仕や病人訪問、貧しい人のため何ができるかを各自に問うこと。中高生がこうした質問にどこまで対応できるかわからないが、黙想会が勉強会に終わることなく、信者としての積極的な生き方を促すことになるという点では有効かもしれない。

タイ東北は出稼ぎの多い貧しいところだと聞いたことがあるが、生き生きとした信者たちの前向きな姿が彷彿として、仏教国に生きる信者たちのたくましさと思われた。ワット神父さんの兄弟たちは、多くが米農家でそれほど豊かではないが、あつからんとして明るいのも頷ける。いつか読んだ本の真似ではないが、幸福度ランキングは世界でも上位の方なのかもしれない。

会と催し 2月

- 2日（金）主の奉獻
- 4日（日）年間第5主日
- 5日（月）ボツファイ神父命日（1988年）
- 8日（木）日本26聖人殉教者
- 11日（日）ザビエル上陸記念祭実行委員会・教区本部・19時
- 11日（日）年間第6主日
- 11日（日）世界病者の日
- 11日（日）教皇ヨハネ・パウロ2世は、1984年2月11日（ルルドの聖母の記念日）に使徒的書簡「サルヴィフィチ・ドロリス」苦しみのキリスト教的意味」を発表し、翌年の2月11日には、教皇庁医療使徒職委員会（現・保健従事者評議会）を開設しました。そして1993年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが発表されています。

また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリックの医療関係者に対してだけではなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的養成、病者や苦しんでいる人への宗教的な助けなども重要な課題です。

- 13日（火）ハンマ神父霊名（聖ヨルダン）
- 14日（水）大隅学園理事會・教区本部・10時
- 14日（水）灰の水曜日（大斎・小斎）
- 14日（水）出口市太郎神父命日（1958年）
- 15日（木）四旬節愛の献金（四旬節中）
- 15日（木）聖マリア学園理事會・教区本部・10時
- 17日（土）正義と平和協議會・教区本部・13時
- 18日（日）四旬節第1主日
- 20日（火）教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 22日（木）聖ペトロ使徒座
- 24日（土）鈴木康由神父叙階記念（2013年）
- 25日（日）四旬節第2主日
- 27日（火）オリープの会・教区本部・14時
- 27日（火）東條一浩神父命日（2001年）

祈りの意向

- 【祈禱の使徒會】
- 世界共通 汚職に対して「ノー」と言う日本の教会 難病治療の支援

ザビエル書院からお知らせ

棚卸のため3月28日（水）、29日（木）両日は休業させていただきます。ご了承ください。

ザビエル書院

鹿児島きぼうの電話30周年記念に寄せて

レデンプトール宣教修道女会 Sr. 澤 ヤ エ 子

2017年12月23日(土)に「鹿児島きぼうの電話」の30歳のお祝い、鹿児島教区本部棟で開催されました。郡山司教様をはじめ元相談員・現役の相談員が思いの手作りの一品を持参して、30人くらいの方々が集まり、予定通り定刻に運営委員長の山口さんのご挨拶が始まりました。郡山司教様のご挨拶と立ち上げた30年前の取り組み、思い出話などをして下さいます。参加者一人ひとりが思い出や現状を一言ずつ話しながらごちそうを頂きました。

2017年12月23日(土)に「鹿児島きぼうの電話」の30歳のお祝い、鹿児島教区本部棟で開催されました。郡山司教様をはじめ元相談員・現役の相談員が思いの手作りの一品を持参して、30人くらいの方々が集まり、予定通り定刻に運営委員長の山口さんのご挨拶が始まりました。郡山司教様のご挨拶と立ち上げた30年前の取り組み、思い出話などをして下さいます。参加者一人ひとりが思い出や現状を一言ずつ話しながらごちそうを頂きました。

この電話の特徴としては、日本社会の現実を置き、悩む人々に耳を傾け、共感することを第一とするものです。ですから良い助言ではなく、良い聴き手が必要とします。目指すのは悩み苦しむ人々に電話を通して「付き添い」ことだ

相談窓口を開設

子どもと女性の人権相談室

鹿児島教区は、教区内で活動する司祭、助祭、修道士によるセクシャル・ハラメントやパワー・ハラスメントに関する相談窓口を設置した。

2002年、米国で聖職者による児童への性的虐待が大きな問題になり、日本の司教団は、カトリック中央協議会内に「女性と子どもの人権擁護のためのデスク」を設置した。

①この電話業務はあくまでカトリックの相談電話サービスであること。
②相談員としてのボランティアだけでなく教区全体で祈りや献金によって支えること。
③マリアのような愛と信仰、使命感を持ってこの仕事に望むこと。

この30年の間、多くの方々の祈りと賛助会員として物心両面の協力によって継続されています。賛助会員の募集は随時行っています。今後ともよろしくお願ひいたします。

「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように」という日本国憲法前文が重なります。目先の現実を突き付け憲法改正に向かわせようとする人びともいます。しかし争いの現実で、平和の理想を諦めさせるのは、まるで人間の過去の罪を目の前に突き付けることで、人間を絶望させ、人間と神さまとの繋がりや断ち切ろうとする「悪魔のやり方」に似ています。

「戦争」を景気回復の公共事業のように行ってきた米国は「集団的自衛権の拡大解釈」により、ベトナム戦争、イラク戦争などで多くの罪を重ね、苦しみと悲しみを生み出してきました。1928年のパリ不戦条約以来、国際法でも違法とされている「侵略戦争」は当たらない、集団的自衛権の発動による「自衛戦争」だと米国は言い張っています。

2世の平和メッセージと「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように」という日本国憲法前文が重なります。目先の現実を突き付け憲法改正に向かわせようとする人びともいます。しかし争いの現実で、平和の理想を諦めさせるのは、まるで人間の過去の罪を目の前に突き付けることで、人間を絶望させ、人間と神さまとの繋がりや断ち切ろうとする「悪魔のやり方」に似ています。

また戦争の特需で一部の人は「巨利」を得ますが、多くの国民は軍事費負担で苦しみ、財政は悪化します。既に安倍政権はそんな過ちに足を踏み込んでいます。戦前の大本営発表のようにメディアを使って「好戦的な世論形成」を行い、その「作られた世論」に乗っかることで「政府の罪の責任」を逃れようとするのです。(谷山教会・本村裕之)

きぼうの電話受信件数 (2016年4月～2017年3月)

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 男性 | 29 | 45 | 21 | 18 | 27 | 23 | 25 | 26 | 20 | 31 | 28 | 18 | 311 |
| 女性 | 20 | 24 | 26 | 28 | 21 | 27 | 25 | 19 | 34 | 39 | 30 | 31 | 324 |
| 無言 | 25 | 19 | 30 | 22 | 23 | 25 | 22 | 17 | 16 | 13 | 19 | 16 | 247 |
| 合計 | 74 | 88 | 77 | 68 | 71 | 75 | 72 | 62 | 70 | 83 | 77 | 65 | 882 |

KJPP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 2月号

誰も戦争をやりたい人はいません。ではだれが人びとに戦争を仕向けるのでしょうか？

2世の平和メッセージと「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように」という日本国憲法前文が重なります。目先の現実を突き付け憲法改正に向かわせようとする人びともいます。しかし争いの現実で、平和の理想を諦めさせるのは、まるで人間の過去の罪を目の前に突き付けることで、人間を絶望させ、人間と神さまとの繋がりや断ち切ろうとする「悪魔のやり方」に似ています。

それは「多国籍資本」とか「国際金融資本」と呼ばれる人びとです。巨大すぎる彼らの姿は普段は私たちの目に触れることはありませんが、彼らの持つお金と権力は非常に強大で、米国の国をささえその支配下に置くほどのです。普通の人びとは「人が死んだらどうするんだ！」と言いますが、彼らは「損失

を出したらどうするんだ！」と言います。イエスさまが「人はだれも神と富とに兼ね仕えることはできない」と言った通りです。彼らは人びとの不安を煽り、その自己防衛本能を過剰に高めるようにメディアや巨大広告代理店を使いまくります。そして防衛意識が過剰になると、ふとした偶発事故や偶発を装った「事件」によって戦争は簡単に起きます。「戦争は人間の仕業です」というヨハネ・パウロ

このように「集団的自衛権」は、個別的自衛権による自国防衛から「逸脱」して、実質的な侵略戦争に変質する「危険」をはらんでいます。

定例会の案内(毎月第3土曜日) 日時 2月17日(土) 13時～15時 場所 教区本部

四旬節と大齋、小齋について

「カトリック教会情報ハンドブック」から

四旬節

復活祭の準備期間を四旬節と呼びます。もともとは復活夜祭に洗礼を受ける志願者の準備期間として起こったと考えられますが、教会をあげて復活祭をふさわしく迎えるために、祈りと施しと断食に励む習慣も生まれました。また、主日は復活の記念日として断食をしない習慣だったので、復活祭までの断食日を実際に40日になりました。現行の規則では、断食の日とされているのは灰の水曜日と聖金曜日であり、四旬節は、主日も含めて灰の水曜日から「聖なる過越の3日間」が始まる晩さんの夕べのミサの前までの、44日間となります。

大齋と小齋

大齋は、1日に1回だけの十分な食事とその他に朝ともう1回わずかな食事をとることができ、満18歳以上満60歳未満の信者が守ります。小齋は、肉類を食べないことですが、各自の判断で償いの他の形式、特に愛徳のわざ、信心業、節制のわざの実行をもって代えることができ、満14歳以上の信者が守ります。どちらも、病氣や妊娠などの理由がある人は免除されます。大齋と小齋を守る日は灰の水曜日と聖金曜日(復活祭直前の金曜日)、小齋を守る日は祭日を除く毎金曜日です。